

お知らせ

小児科救急診療は当番制で行っています

市立長浜病院では、長浜赤十字病院と湖北総合病院と連携し、小児科の救急診療(土日や夜間の診療)を当番制で行っています。救急時の診察は、当番病院を受診していただきますようお願いいたします。

小児科救急診療の当番表

市立長浜病院 (長浜市大戌亥町313・☎2300)

曜日	日	月	火	水	木	金	土
昼間			通常診療				
夜間(翌朝まで)							

長浜赤十字病院 (長浜市宮前町14-7・☎2111)

曜日	日	月	火	水	木	金	土
昼間			通常診療				
夜間(翌朝まで)							

湖北総合病院 (伊香郡木之本町黒田1221・☎3315)

曜日	日	月	火	水	木	金	土
昼間			通常診療		通常診療		
夜間(翌朝まで)							

当番日で小児科医が当直診療
当番日ではないが小児科医が待機し診療

小児科救急診療について、くわしくは各当番病院へ。

市立長浜病院の外来を初診で受ける人で、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない人には、平成18年1月から、初診時の特定療養費(2100円)をご負担いただいています。

これは、診療所(かかりつけ医)が日ごろの健康管理や比較的軽い病気の治療を担当し、病院(専門医)では専門的な検査や救急医療、入院治療などを担

市立長浜病院 外来の初診は紹介状持参で



治療や看護内容を経過に沿って説明 クリニカルパス

みなさんは、病院で「入院してください」と言われたら、
どんな治療や検査を受けるんだろう
病院での生活はどうなんだろう
退院はいつくらいだろう・・・
など、多くの不安や疑問を持たれるのではないのでしょうか。

市立長浜病院では、病気ごとに、治療や看護の内容を経過に沿って記した計画表「クリニカルパス」を医療者用だけでなく、患者様用も作成し、お渡ししています。

このクリニカルパスには、入院中に行われる標準的な検査や治療方法、経過に沿った目標が記載されていますので、患者様はどんな検査や治療を受けるのか理解しやすくなります。
治療内容がわかれば、ただ、治療を受けるのではなく、「一緒に病気を治す」という意識を持って、治療に参加していただくことができますし、「何をされるのかわからない」という不安を解消し、医療者との信頼関係につながります。



入院時の治療・看護計画を担当医から説明

また、医師や看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師などが、クリニカルパスに基づいて治療や検査を行うことで、統一化された医療を提供することもできます。
クリニカルパスは、まだ、改良する点がありますので、今後も充実させていきたいと思っております。ご不明な点があれば、気軽にお尋ねください。

項目	入院時	術中	術後	退院時
経過観察
検査
処置
薬物
看護
食事
排便
歩行
その他

クリニカルパスの一部

生活改善実践教室

日ごろの健康づくりや、高血圧症や肥満などの克服について、家庭用血圧計や体重計、減塩食品などを用いて説明します。



とき 7月20日(木)
午前10時30分～11時30分
ところ 市立長浜病院 2階講堂
講師 琴浦良彦(市立長浜病院長)
演題 「生活習慣病の予防～

心筋梗塞をのり越えて～」
できれば体重、身長、腹囲(おへその位置で測定)、血圧、総コレステロール値、LDLコレステロール値、空腹時血糖値をメモしてきてください。

お申込みは、市立長浜病院看護科長室窪田(☎2300)へ。

「いくつになってもいきいきと！
地域で支えるまちづくり」
1部・講演
介護予防緊急対策室研究員(東京都老人総合研究所 小島基永氏)

お申込みは、長浜米原東浅井介護認定審査室(長浜市役所東別館5階) (☎1145、☎0263)へ。

【申込方法】 電話・FAXなどで、お名前と住所をお知らせください。

【定員】 470人(先着順)
【講師】 小島基永氏
【ところ】 米原公民館大ホール (米原市)
【とき】 7月28日(金)
午後6時30分から

【受講料】 無料
【締切り】 7月14日(金)
【申込方法】 電話・FAXなどで、お名前と住所をお知らせください。

高齢者が、いつまでもいきいきと人生を楽しんでいただけるように、地域でどんな取り組みをしていけばいいのを探ります。
【とき】 7月28日(金)
午後6時30分から

2部・パネルディスカッション
「活力ある85歳をめざして」
コーディネーター(小島基永氏)と高齢者対象のスポーツ指導者、筋力トレーニング教室受講者との対談

福祉のまちづくり講座

夏に流行する病気



市立長浜病院 小児科 浅野 勉 先生

暑い季節となりました。インフルエンザの流行はおさまり、かわって手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱などのいわゆる夏かぜが多くみられるようになりました。

手足口病は文字通り、手の甲や手のひら、足の裏、口腔粘膜などに水疱性の発疹がみられる病気で、発熱はみられないことが多いです。ヘルパンギーナは、突然の発熱で始まり、のどの奥に水疱がいくつもできて痛みもあり、食欲も減退し脱水となることもあります。プール熱として知られる咽頭結膜熱は発熱、のど・眼の結膜の炎症がみられる病気で、流行例はスイミングプールで水を介して、直接粘膜に感染して症状を引き起こします。それぞれの病気について、特異的な治療法はなく、発熱に対する解熱薬の投与などを行いますが、病気の程度によっては脱水症状を引き起こすことがあります。また、まれに手足口病でけいれん・意識障害を呈することもありますので、特に小さなお子様は、小児科受診をおすすめします。